

内部評価の結果

【評価結果】

事業継続

【評価理由】

本市では、産業構造の高度化や物流機能の充実・強化を図るため、北九州空港やひびきコンテナターミナルの整備など、様々な物流拠点の整備に取り組んでいる。安定的な物流・人流を確保・活性化するためには、これらの物流拠点や中心市街地を結び、本州や九州各地域との連携を促進する主要幹線道路の整備を進め、広域道路ネットワークの形成を推進する必要がある。

また、大規模災害発生直後において、人員や物資等の緊急輸送活動を確実かつ円滑に実施するためには緊急輸送道路を早急に整備する必要がある。

北九州広域都市計画道路戸畑枝光線は、北九州都市高速道路や若戸トンネル等と一体となることで、我が国のものづくりを牽引する企業が集積する響灘地区、戸畑区臨海部、東田地区等を結ぶ、環状放射型の自動車専用道路ネットワークを形成するもので、戸畑区大字戸畑を起点とし、八幡東区東田五丁目を終点とする延長約4km、4車線、代表幅員18mの自動車専用道路である。

これまで、戸畑枝光線1期および汐井町牧山海岸線に平成 23 年度から事業着手し、高架橋やアンダーパスなどの大型構造物の大部分が完成してきている。事業の進捗に合わせて行ってきた詳細な土質調査に基づく地盤改良の増工や、近接する鉄道や建物への対策等により、事業費及び事業期間の見直しが必要となった。

また、平成 26 年度に着手した2期は、今後の本格的な工事着手に向けて、詳細な設計や土質調査を行い、1期の状況を加味しながら事業内容を再検討したところ、大幅な事業費及び事業期間の見直しが必要となった。

これらの見直しを踏まえても、戸畑枝光線は、本市の物流拠点と中心市街地や本州、九州各地域とを連携させる広域道路ネットワークを構築するものであり、産業構造の高度化や物流機能の充実・強化、災害時の定時制や高速性を確保するうえで極めて重要な路線であり、その整備効果は非常に高い。また、周辺地域の渋滞緩和、交通安全の確保等、生活環境の向上にも寄与する。

このことから、公共事業調整会議にて、原案のとおり事業を『継続』することを対応方針として決定した。

なお、公共事業調整会議では、更なるコスト縮減に努めるべきであるとの意見があった。これについて、発生土の流用促進、新工法や新技術の活用等、引き続きコスト縮減の検討を行うこととする。